

山口県最低生計費試算調査結果報告—子育て世帯モデル

—山口で子ども2人を育てるには、約500万円～714万円必要—

2020年1月30日

山口県労働組合総連合

○山口県労働組合総連合（県労連）では、2018年より生計費調査に取り組んでおり、昨年5月には、若者が1人暮らしをするための費用を公表した。今回は、山口で**子どもを普通に育てるためにはどのくらい費用がかかるのか**を明らかにしたい。

○具体的には、主に県労連に加盟する各単産・ユニオンの労働者などを対象に、生活のパターンを調べる「**生活実態調査**」および持ち物をどれくらい所有しているのかを調べる「**持ち物財調査**」を実施し、その結果を精査し生活に必要な費用をひとつひとつ丁寧に積み上げて算定している（マーケット・バスケット方式の採用）。

○この調査には、2029名以上が回答に協力している。今回は、そのうち実際に子育て中の**30代=208ケース、40代=368ケース、50代=207ケース**のデータを分析した結果を報告するものである。

○山口市で**子どもを普通に育てるため**には、30代で**月額416,118円**、40代で**月額517,539円**、50代で**月額595,152円**（ともに税・社会保険料込み）が必要である。これは年額に換算すると30代=**約500万円**、40代=**約621万円**、50代=**約714万円**になる。

○ここで想定する「普通の生活」とは、以下のようない内容である。30代は夫婦と小学生、公立の幼稚園に通う幼児からなる4人家族。43m²前後の賃貸マンション/アパートに住み、家賃は40,000円。1か月の食費は約10万円（=1人1食約273円）。夫の昼食は月の8日はコンビニ弁当、残りは弁当持参。飲み会の月に2回で1回あたりの費用は3,000円）。小型自動車を1台所有し、買い物や子どもの送り迎えに利用（自動車にかかる費用は月あたり約22,000円）。お花見や海水浴など日帰り行楽は3ヶ月に2回（1回の費用は家族みんなで5,000円）。教育費は1か月あたり約12,000円。40代になると、自動車の所有台数が2台に増え（軽自動車と普通自動車で、月当たりの費用は約41,000円）、子どもは小学生と中学生となり、月あたりの教育費は約39,000円に増える。さらに、50代になると、長男は山口市内の国公立大学に通い始め、学費が跳ね上がる。最も学費がかからない設定でも、1か月あたりの教育費は約74,000円かかり、このうち大学生にかかる教育費が約56,000円であった。

○冷蔵庫、炊飯器、洗濯機、掃除機、エアコンなどの家電は、量販店で最低価格帯のものでそろえ、夫はスーツ2～3着（28,000円）を4年間、妻はスカート2～3着（3,000円）を3年間、それぞれ着回しているなど、けっして贅沢な暮らしではなく、むしろ慎ましいとも言える生活である。

○今回の調査によって、生計費は年代が上がるにつれて増加していく、実際の賃金とのギャップはますます拡大していくことが明らかになった。生計費を押し上げている主な要因は教育費である。もちろん、賃金の底上げは喫緊の課題であるが、生計費をすべて賃金でまかなうことは暮らしからゆとりを奪うことにもつながる。子育てに関する費用はできるだけ社会でまかなうことができるよう社会保障制度の充実も望まれる。